宮崎大学教育文化学部紀要　教育科学　第５号（2001）27－35頁

家庭科授業観察におけるワークシートの導入

伊波富久美※1　　福原美江※1　　三井里美※2

The Introduction of a Work Sheet in the Observation of Home Making Lessons

Fukumi IHA, Yosie FUKUHARA, Satomi MITUI

１．はじめに

これまで、家庭科での実践的指導力は、主に以下の学習活動を通してその育成を図ってきた。

・２年次での観察参加。
・３年前期での指導案の作成や教材研究、模擬授業やマイクロティーチングの実施。
・３年次での教育実習（３週間）
・３年後期のストップモーション方式による授業評価や授業改善、教材開発など。

このように教育実習を見据えてカリキュラムを組んでいるが、さらに附属学校と大学の教員の連携をより緊密なものにし、学生の指導力育成の視点を共有しながらその効果を上げることをめざして、共同で授業観察記録用紙を開発し、教育実習への導入を試みた。

先行研究[1)]で用いられた授業観察用紙を、附属中学校及び大学の家庭科教育の教員で、一部改訂の上、「家庭科授業観察記録用紙」として資料１に示したワークシートを作成した。そして、1999年11月に予備的研究として、附属中学校での大学４年生対象の教育実習に導入した。その結果、先行研究で指摘された効果は認められたものの、家庭科で特に求められる授業の総体的把握と評価の側面が、この観察記録用紙では、十分に補えないことが問題点として浮かび上がってきた。

そこで本研究では、家庭科の独自性を生かした授業観察記録用紙の導入方法を検討し、家庭科の実践的指導力の育成を図ることを目的とした。

２．研究方法

予備的研究では、先行研究と同様に図１の手順で、まず観察者は授業が行われるのと同時並行で記録用紙に気づいたことを分類し、記入していった。その後、各自の記録用紙をコピーし、事後研究会で参加者全員に配布し、検討を行った。この方法では個々の教授技術を意識化し、

＊1　宮崎大学教育文化学部　　＊＊2　宮崎大学教育文化学部附属中学校

資料１　家庭科授業観察記録用紙

授業日：　年　月　日　曜日　時間目／第　学年　組・授業者名：
題材名：　観察者名：

1.　教科内容の理解 (1)教師自身の家庭科に対する理解 (2)学習指導要領における内容の位置づけ (3)学習指導要領との内容の関連性	**4.　学習環境の整備** (1)学習環境（教材・教具の準備など） (2)教育機材の利用　(3)活動空間への配慮
2.　教科学習にかかわる児童・生徒の理解 (1)既習事項　(2)実態（児童・生徒に特有の見方や感じ方・予想される行動、興味・関心） (3)ラポート	**5.　指導法** (1)提示物と指示・発問　(2)児童・生徒の疑問の取り上げ方　(3)板書（タイミング・内容・レイアウト）　(4)声の大きさ・調子　(5)アイコンタクト　(6)教師の期待とは違う反応への対応　(7)学習形態（一斉・グループ・個別）
3.　授業の組立 (1)課題（問題）把握　(2)学習の見通し　(3)実習・実験、グループ活動、講義等　(4)考察　(5)導入・展開・まとめと振り返り(6)次時への見通し(7)授業の各場面の整合性　(8)時間配分	**6.　評価** (1)児童・生徒に対する評価の観点の明確化（家庭生活への関心・意欲・態度、家庭生活に対する知識・理解、技能）　(2)評価の方法・生かし方

この授業及び反省会を終えて

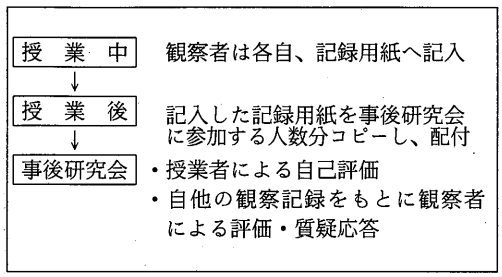


図1　予備的研究における観察手順

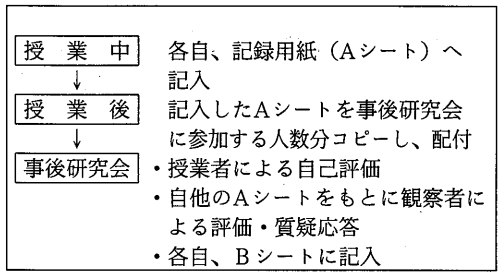


図2　本研究における観察手順

検討する上では効果的であるが、授業の一連の流れのなかで、教授行為を位置づけ、評価するのは困難であった。特に家庭科の授業では、ひとつの教授行為がその前後との関わりのなかで初めて意味を持ってくるような場面が多い。例えば、導入部で用いた教材が単に授業への導入にとどまらず、展開部の伏線となって、まとめの段階で再度、それが生かされる等である。

そこで、授業の流れを把握しやすくなるよう、授業が行われている最中は資料2に例示した記録用紙（Aシート）を用いることにした。これは学習指導案の指導過程に、気づいたことを自由に記入できる余白を設けたものである。図2に示した手順で授業観察時はAシートに記入し、授業後、事後研究会の参加者全員に、その記録用紙をコピー・配布した。そして、資料1の記録用紙はBシートとして、事後研究会で各自が、他者のAシートを基にした評価内容を聞きながら、分類・記入するのに用いることにした。

2000年10月に行われた附属中学校での大学3年生の教育実習で、以上の方法を導入した。分析対象としたものは、2000年10月19日に行われた公開研究授業(4時間分)で、教育実習生4名が記録した2種類の授業観察記録用紙（Aシート計12枚、Bシート計16枚）とこの方法に対する教育実習生の自由記述である。

3．結果及び考察

記録用紙記入の実際

＜Aシート＞

実習生には、教育実習に入る前に、資料2の「本時の指導過程」を抜き出した形式のAシートを作成するよう指示していた。しかし、始めのうちこそ、この形式にしていたが、実習の後半では実習生の方で資料3のように、学習指導案をそのまま縮小コピーして余白部分をつくり用いていた。できるだけ時間の節約をしたいとの思いからであったようである。記入例のように、実習生は授業の流れに沿いながら、どの場面の観察事項なのかを矢印で示したり、学習指導案の記載箇所に対応するように、自分の気付きをその近くに記述しており、特定の場面を意識しながら観察していた。

また、実習生が記述したどの記録用紙も、縮小して作った外側の余白部分だけでなく、文章と文章の間の余白などもフルに活用されていた。そこには教材の代案や指導方法の代案が記述されていたが、指導案をそのまま縮小コピーしたものでは、余白が少なく、記述量も制限された可能性がある。指導過程の書式を改善するなど、もっと授業の流れに沿った記入が十分に保障されるよう余白部分を確保する必要があろう。

資料２　家庭科授業観察記録用紙（Ａシート）

Ａシート	家庭科授業観察記録用紙（2000年３月８日改訂）　於・附属中学校 ・授業前に配付し授業観察しながら、できるだけ気づいた点を多く記述する。 ・事後研究会の初めに人数分をコピーして全員に渡す。

授業日：　年　月　日　曜日　時間目／第　学年　組・授業者名：
題材名：　観察者名：

◆指導過程

	指導内容	時間	学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入					
展開					
整理					

◆板書ほか

資料３　家庭科授業観察記録の例　（１枚目）

１．単　元　　子どもたち心豊かに育てよう

２．目　標

（１）自分の成長と家族との関わりについて関心を持ち、積極的に幼児に関わろうとする態度を育成する。

（２）幼児の心身の発達の特徴を説明できるようにする。

（３）遊びの特徴や意義を知り、幼児の発達を促すおもちゃを工夫して製作することができるようにする。

３．指導計画

子どもたち心豊かに育てよう――――――――――――――――――――――― 14時間

（１）幼児の心身の発達について知ろう――――――――――――――――― 2時間

（２）幼児の生活習慣について考えよう――――――――――――――――― 1時間

（３）幼児の遊びについて考えよう――――――――――――――――――― 6時間（本時1／6時間）

（４）幼稚園訪問実習をしよう――――――――――――――――――――― 4時間

（５）家族と家族関係についてまとめよう――――――――――――――――― 1時間

４．本時の学習指導

（１）目　標

○ 幼児の遊びについて知り、その特徴を理解できる。

○ 幼児の遊びは様々な能力の発達とかかわっていることが説明できる。

（２）資料及び準備

教科書（開隆堂、下）、ワークシート、カード、おもちゃ、ボード、マジック、のり

（３）指導課程

課程	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	時間
導入	1．幼いとき、どのような遊びをしていたか一番印象深い遊びをカードに書き発表する。 2．本時の学習内容の確認をする 幼児の遊びについて考えよう	○今までに様々な遊びを経験していると言うことに気付くようにする。	5 7
展開	3．おもちゃを各班に1つ提示し、おもちゃの特徴、遊び方、遊ぶ子どもの対象年齢、おもちゃが子どもに与える影響を話し合う。 4．話し合った内容を班の代表が発表し、他の班の生徒はワークシートにメモする。 5、まとめた内容から遊びによって引き出される五つの能力を考え、発表する。 ・社会性 ・情緒 ・ことば ・運動能力 ・知的能力	○各班に異なるおもちゃを提示する。 ○見たり、触ったりするのはよいが、乱暴に投ったり、壊したりしないよう注意を促す。 ○おもちゃの大きさや色、デザインなどに目をむけるようワークシートを準備する。 ○遊び方は１通りでないこと、対象年齢には幅があることなどに気づくよう助言する。 ○子どもに与える影響には今まで学習してきた内容が深く関わっていることに気づくよう促す。 ○メモするポイントを説明する。 ○特徴など重要な点は、生徒がまとめやすいように黒板を使って再度説明するよう配慮する。 ○意見が出にくい場合は心身の発達の学習を振り返るよう助言する。 ○五つの能力を説明し、生徒が理解を深めることができるようにする。 ○遊びが能力を発達させるために重要であることに気づくよう促す。	20 30 35

（２枚目）

	6．最初に記入した遊びはどの能力を引き出すものなのか考え、五つに色分けし、班でボードに貼る。	○おもちゃを使わない遊びも考えることができるよう班を回って助言する。 ○二つ以上の能力を引き出す遊びには２色、３色と工夫して塗るよう例を出して説明する。	45
終末	7．本時のまとめをし、感想をワークシートに記入する。 8．次時の予告	○ 黒板を使ってまとめることができるよう工夫して説明する。 ○次時からおもちゃ作りをすることを告げる。	50

一方、実習生は各々、自分なりのスタイルで自由自在にAシートへ記入していた。Aシートは記入する観察者にとっては書き易いのであるが、それをそのまま授業者が受け取って読んでみても理解しがたい記入になっていた。授業者に対して、その内容を直接、観察者がフィードバックする場面が不可欠であり、事後研究会はその意味で重要といえる。その場で、授業者、観察者の双方が、Aシートに記入された内容を咀嚼しながら、Bシートを用いて整理・意識化していくことができよう。

＜Bシート＞

① 各項目への記述

6項目の分類に対する記述量は表1の通りであった。「5.指導法」が平均6.6個で最も多かったのに対し、「6.評価」では、平均0.6個しか言及されていなかった。教師の行動など、現象として具体的に捉えられるものに対して、意識化しやすいと考えられる。しかし、授業を観察する場合は、現象面だけでなく、多様な角度から吟味することが重要である。Bシートでの分類結果を振り返ることで観察が現象面に片寄る傾向にあることを自覚できよう。なお、「5.指導方法」では記述が枠内に収まらず、他の欄に記入し矢印でそれを示している記述もみられた。他項目への意識化と同時に、記述するスペースの調整も必要であった。

表1　各項目への記述数（平均）

1. 教科内容の理解	4. 学習環境の整備
1.9	2.5
2. 教科学習にかかわる児童・生徒の理解	5. 指導法
2.1	6.6
3. 授業案の組立	6. 評価
2.9	0.6

② 記述内容の多面性

Bシートの記入にあたって、最も実習生が困難を感じたのは、授業観察で気づいた内容を分類することであった。分類することによって、各観察視点を意識化することができた一方で、表2に示したように、不適切とも判断される分類が散見された。例えば、表2の記述例「3）米2.5倍は教師がもっと理解すべき。」は、「5.指導法」より「1.教科内容の理解」に分類すべき記述といえる。記述例「1）導入を最後まで生かすのがとても良い。」は、「2.児童・生徒の理解」より、「3.授業の組立」とすべきともいえるが、子どもの興味を理解していたからこそ、そのような授業の組立にしたともいえ、必ずしも間違いと断定するわけにはいかない。また、そればかりでなく、表3のように、二つの項目に関わる内容も記されていた。例えば、表3の記述例「2）1つ1つ区切るので、やる気のある人は、やる気がなくなってしまう。」というのは「3.授業の組立」に分類されていたが、「2.児童・生徒の理解」にも関わってくる。また、「3）「遊びとは何か？」むずかしい質問。」というのは、「5.指導法」に分類されていたが、「2.児童・生徒の理解」にも関わっている。

他方、資料4に示したような、指定された記入形態ではなく、分類の枠に当てはめずに自分なりの書き方をしている実習生もみられた。「3.授業の組立」と「6.評価」の下部から「この

授業及び反省会を終えて」の欄にかけて、矢印を用いて記入している。これも、1つの要素が他の要素と関わっていることを意識した結果とみることができる。

このように、Bシートでは分類困難な記述内容もあり、Aシートで複眼的に観察できるようにしておくことが重要であり、Bシートの分類が2項目あるいは多項目に関わる内容もあることの確認や補足の場として事後研究会が機能する必要があるといえる。

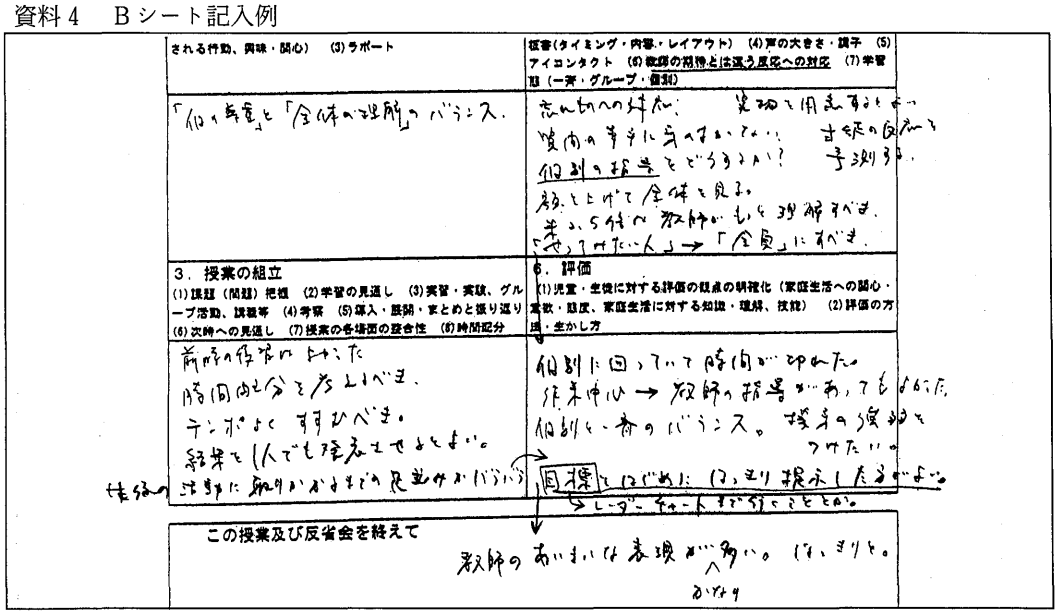
表2　不適切とも判断される分類例

記　　述　　例	分類していた項目
1）導入を最後まで生かすのがとても良い。	2. 児童・生徒の理解
2）あそびは「自発的なもの」というものが引き出されていたのだろうか。	3. 授業の組立
3）米2.5倍は教師がもっと理解すべき。	5. 指導法
4）最初に今日はどこまで進むかをはっきりと予告しておくことも必要では？	6. 評価
5）個別に回っていて時間が切れた。	6. 評価

表3　二つの項目に関わる内容

記　　述　　例	分類していた項目
1）あそびは能力を引き出すとわかるワークシートがあまりよくない。	2. 児童・生徒の理解
2）1つ1つ区切るので、やる気のある人は、やる気がなくなってしまう。	3. 授業の組立
3）「遊びとは何か？」むずかしい質問	5. 指導法
4）いらないものは下へしまわせる。	5. 指導法

資料4　Bシート記入例



③　授業目標への言及

家庭科の授業案を作成する段階では、授業目標を強く意識し、本時の指導内容を具体化していくのに対し、Bシートでは目標に照らした総体的な授業評価の欄が明示されていなかった。そのため、表4に示したように、目標についての記述が「1.教科内容の理解」にあったり「2.児童・生徒の理解」や欄外にあるなど散在していた。家庭科は同じ教材を用いても、目標をどこに置くかによって、授業内容が全く異なってくる場合があり、評価も異なってくる。他教科の場合では、到達点が明確で目標はほぼ定まっているだろう。授業者によって授業内容は変わるにしても、目標自体が個人で大きく変わることは希であろう。これに対し、家庭科は目標を設定する段階でも、教師の裁量が大きい教科である。部分として各学習場面をみていると、教師が独自に設定した目標を達成できたか否か、授業内容をトータルとして検討する視点が弱くなってしまう。したがって、「6.評価」や「1.教科内容の理解」、「2.児童・生徒の理解」に関わる内容ではあるが、Bシートにも、授業目標の妥当性及び授業目標と内容との整合性を吟味する項目を明示すべきあった。

表4　目標に関わる記述内容

記　　述　　例	分類していた項目
1）何を学ばせたいのかを考えさせる。なぜ計算しなくちゃいけないのか。	1. 教科内容の理解
2）「何を最終的な目標とするのか？」分からなかった。	2. 児童・生徒の理解
3）子どもにとって遊びとは何か？	欄外

④　深まりに欠ける記述

表5の記述例1)、2）に示したように、記述がよい、悪いの評価のみで、どのような点で良いのか、悪いのかの考察がなされていない記述がみられた。また、「1.教科内容の理解」の項目には、記述例3)、4)のように、具体的な事柄が記されていたが、家庭科内容における位置については触れていなかったり、単に事項が記されているのみのものもみられた。

他方、観察した授業内容に対して、自分なりの代案や例示を記述していたものも見られたが、記述例5）のように、遊んでいるだけの子どもに対して、具体的にどのような指導をすべきなのか、あるいは記述例6）のように、どのような形で子どもから出た意見を生かすべきなのか、もう一歩、踏み込んだ記述になっていないものもあった。Bシートは授業後の記入になり、Aシートに比べ代案や例示等を出しにくかったことも影響していると考えられる。したがって、事後研究会の中でそれら、深まりの足りない部分をAシートも活用しながら、参加者全員の共通の問題として取り上げ、共に考えていくことが重要であろう。

表5　深まりに欠ける記述例

記　　述　　例	分類していた項目
1）段ボール作戦、とてもよかった。	4. 学習環境
2）ダンボールに入っていたのでよかった。	4. 学習環境
3）米とごはんの分量のちがい。	1. 教科内容の理解
4）情緒の意味	1. 教科内容の理解
5）ただ遊んでいるだけの子がいた。もっと指導すべきだった。	5. 指導法
6）おもちゃ「色があざやか」という意見をもっと生かすべきでは？	2. 児童・生徒の理解

⑤　時間配分

「3.授業の組立」では、時間配分が観察視点として挙げられていたが、表6に示したように実習生の意識は、時間内に如何に予定した内容を納めるかという点に向けられ、各学習活動と時間配分の在り方が適切であったか否かの検討になっていなかった。授業者としての経験が浅い場合、授業内容として設定した各学習活動に要する時間の予測が困難なことが、とにかく時間内に終わればそれでよしとする傾向を助長しているようである。教育実習以前の段階で、例えば、学習者にノートを取らせると意外に時間がかかってしまうことや実習・実験では取り掛かるまでに多くの時間が費やされてしまう等、教授方法の違いによる所要時間の違いを体験的に学習できるようにしておくことも必要であった。

表6　時間配分

記　　述　　例	分類していた項目
1）時間がうまくおさまって良かった。	3. 授業の組立
2）50分で授業がおさまっていた。	3. 授業の組立
3）50分で授業を終えれたのでよかった。	3. 授業の組立

4．今後の課題

以上のように、授業時間中はAシートに記入し、事後研究会でBシートを活用することによって、家庭科の特性に応じた授業観察及び検討を行うことが可能になった。一方、課題も多く、改善すべき点も明らかになった。資料5の実習生の自由記述のように、教育実習期間中は実習生への負担が大きく、全ての事後研究会をこの形式で行うのは困難なようである。Aシートは、毎回の授業観察に用いるものの、Bシートは、教育実習を何期かに分け、区切りの授業の事後研究会で用いたいと考える。

また、授業者、観察者ともにゆとりのある教育実習前後の学部における演習（模擬授業や授業分析など）の段階でもこの方法を組み込み、教育実習との連携を強化していきたい。

資料5　自由記述例

1）・・（前略）・・ただ、一つ言うなら、実習期間中は指導案・教材作りや実習録を書いたり、週番指導、日直など、やる事がいっぱいです。そんな中で反省会で長い時間とるのは厳しいです。土日など休日の方が助かります。

2）・・（前略）・・検討会に使う資料が多すぎて、2台のコピー機をフル回転させたが、時間はかかるし、間に合わなかった。（正直、時間がもったいない。）

5．引用文献

1）・中山迅他　教育実習生の理科授業観察能力向上を図るワークシートの開発　宮崎大学教育文化学部附属教育実践研究指導センター研究紀要　第7号、91-101　2000

・菅　裕　中学校・大学教員と教育実習生の音楽科授業観察記述内容の比較分析　宮崎大学教育文化学部紀要教育科学　第3号、107-122　2000

・竹井成美・中山迅・菅　裕他　教育実習生の授業観察能力と授業分析能力を育てる教育システムの開発「体験的学習」をどのように実践するか　宮崎大学教育文化学部　115-127　2000.3.